

豊津団地 「磨く」+居住実験



DATA

●主な連携先・メンバー

大阪府住宅供給公社

●活動地域

吹田市 豊津団地

●活動資金

大阪府受託供給公社からの受託研究費

活動の目的

- 1 | 1951年に竣工した団地の部屋を、学生が磨き、実験的に住むことで、現代に合う活用を探る
- 2 | 浴室や屋上を現在の居住者と共同利用して暮らすことで、今の若者に受け入れられる共同の住まい方を考える



連携にいたる経緯

戦後に作られた団地であり、標準設計50B型の住戸プランが現存しているものは少ない。住む人の高齢化や空き部屋の増加が目立ち、リノベーションされた部屋もつくりられている。50B型の住戸を磨き、住まう実験をすることで、これからの活用方法を建築学生が提案する。

活動内容

現存する50B型の部屋の視察と、各階段室の空き部屋状況から、実験に使う部屋を選定。木部を磨く、塗装の剥がれた壁や扉を塗り直すなど、最小限の学生にできることで元の状態に戻す。そこで、生活してみることで、共同生活での課題や利活用を考えた。部屋に住むまでの作業や住む中で起こった内容などをまとめた記録をDIYキットとして作成。大阪府住宅供給公社に発表し、これからのライフスタイルにあった古い団地の活用への提案を行った。



活動の成果

- 1 | お披露目会により、団地住民や団地に興味のある人が現存する50B型のプランを見学
- 2 | 学生と高齢者の生活スタイルに合わせて、共同風呂などの共同で使うもののルールを再考
- 3 | 共同生活していく中で、住民との会話から建設当時の使われ方、今の使われ方を実際に学べた

今後の課題・目標

- 1 | 現存する昔の間取りのよさを崩さず、現代に合った暮らし方のできるDIYの促進
- 2 | 同じ階段室・団地に住む住民との共同ルール作成の一般化



●教員紹介



環境都市工学部 教授 岡 絵理子(おか えりこ)

都市計画と住宅を専門としている。自分たちで考え内発的に動き、まちや地域の人々と実際に触れ合うことで、生活者として成長して欲しいと思っている。